

インターンシップを受け入れた企業の変容

インターンシップ生は 職場の雰囲気を変えてくれる

今治市 株式会社オリム 代表取締役 平林 元樹



実際にインターンシップを受け入れている企業経営者は、どのように「インターンシップ」を位置付けているのだろうか。数年前からインターンシップを積極的に受け入れている今治市のタオル会社「オリム」の平林社長にお話をうかがった。

インターンシップ受け入れのきっかけを教えてください。

1986年に会社を設立し、設立当初は、ごく普通のタオルやタオルケットなどをつくっていたのですが、10年ほど前から中国のタオルが日本の市場に入り始めて、それに合わせて業績も落ちてきました。

そこで、これではいけないということで、「アイデアタオル」といいますか、オリムのオリジナル商品をつくり、その品

質もよそにまねをされにくいものをつくって販売していこうと事業転換を図りました。

「タオルマフラー」などはその代表格で、現在は、会社の売り上げのおよそ3分の2がアイデアタオル関連商品の売り上げになっています。

そんな企画型の商品を次々に生み出すためには、優秀な人材を確保する必要があります。

しかしながら、タオル産業に対する学生の認知度も低いこともあり、なかなか優秀な人材が来てくれないという現状がありました。

そんなとき、大学のインターンシップの話が持ち込まれたので、まずは学生に自分の会社のことを知ってもらうことから始めようということで、インターンシップを受け入れるようになりました。

どんなインターンシップを受け入れているのですか？

現在は、大学が実施している2週間程度の短期のインターンシップと、NPO法人Eyesさんがやっている半年間の長期のインターンシップを受け入れています。

短期の場合は、2〜3部署を体験で実習してもらう程度の内容ですが、長期の場合は、内容はその都度、変えており、最初に長期で受け入れた松山在住の男子学生の時は、本人の希望もあって「通信販売」によって新しい販路を開拓してもらいました。

結果としては、5〜6社注文が来ましたので、まずまず成功の部類ではないかと思いますね。

2人目は、愛媛大学の女子学生だったのですが、原価計算から企画書の書き方

インターンシップの様子 (左がインターンシップ生)



**受け入れ側のメリットと
デメリットを教えてください。**

まず、メリットは職場が明るくなることでしょう。これは短期でも長期でも同じです。若い人が職場にいるだけで雰囲気はかわりますね。

それからもうひとつ重要なのが、インターンシップ生が良い意味で社員に刺激を与えてくれることでしょうか。

インターンシップ生に仕事を教えたら、どんどん覚えてやってしまうわけですから、社員もこれは大変だという気持ちになってくれるわけです。

平たく言えば、職場が活性化するといったところでしょうか。

また、インターンシップをしてくれた学生が、後輩や友達にオリムの宣伝をしてくれることも大きいですね。

次に、デメリットですが、やってくる学生の質が悪ければ受け入れ側のリスクもあるかもしれませんが、まずインターンシップをやってみようかという学生は、前向きで積極的な学生が多いわけで、マインナスになることは今のところないですね。オリムが今まで受け入れをした学生に限ってみては、「こんな子が、わが社に来てくれたらいいのに」と思うような学生ばかりでしたね。

実際にオリムでインターンシップをし

てから、大学卒業後に入社してくれた学生もいます。

**地域の企業が
インターンシップを受け入れることは
地場産業の活性化や地域活性化に
つながると思いますか？**

先日、経営コンサルティングの方とお話をさせていただいたのですが、業績の良い企業は、社員の接遇が行き届いて、事務所の整理整頓ができているところが多いそうです。

要するにレベルの高い社員のいる企業は業績がよいわけですが、企業経営者として、社員の質を高めるためにも職場に若い力を入れていく必要があると思います。

社員の質が向上すれば企業の業績も伸びるわけですから、地場産業の企業の業績が伸びれば、それはすなわち、その地域の活性化にも自然とつながって行くことでしょう。

ですから、私は学生が一人インターンシップで職場に入ってくれるだけで、ずいぶん大きな力になると思いますね。

株式会社オリム

設立／1986年
本社／今治市天保山町5丁目3-1
代表／平林元樹
資本金／2000万円
売上高／5億5000万円
従業員数／28名
事業内容／アイデアタールの企画・製造・販売
<http://www.orim.co.jp/>

**学生にとって長期にわたって
インターンシップをする魅力とは
何でしょうか？**

短期だと何かの仕事をやり遂げるということができると思いますが、半年のような長期だと何かの仕事をやり遂げることができるのが魅力でしょうね。

などの基礎知識を新入社員といっしょに全部教えこんで、新しい商品を開発して販売させる仕事を担当してもらいました。ギフトショーでの評価も上々で、その商品は今年9月からの販売を予定しています。